

中学生の課題図書(2023年)



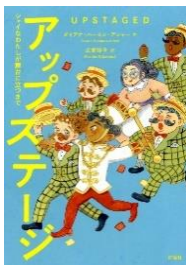
『スクラッチ』 歌代 朔／作（あかね書房）



中三の夏、千咲が目標としてきた美術部の大会「市郡こども美術展」は、コロナ禍で審査中止となった。たとえ審査がされないとしても千咲は作品を描きつづけてきた。ある日幼馴染の鈴音は不注意でその絵を汚してしまう。しかしそれがきっかけとなり本当に描きたいものって何かを考え始めて・・・

『アップステージ』 ダイアナ・ハーモン・アシャー／作 武富 博子／訳（評論社）

シーラはシャイな女の子。学校ミュージカルに出て歌ってみたいけど、自信が持てない。オーディションで抜群の歌を披露し、出演者に選ばれたまではよかったが・・・。わがままばかりで、トラブルメーカーの主役モニカ始め、それぞれの思惑が交差し練習でトラブル続出！さて本番はどうなる？



『人がつかった川・荒川』 長谷川 敦／著（旬報社）



今や流域に約1000万人を支えているといわれる荒川。その川もかつては大雨で川の水があふれ、荒くれ者と評された。そんな荒川は、時代とともに人の手が加えられることで、江戸時代には輸送路として使われるようになり、江戸は大いに繁栄した。そんな荒川の歴史や役割、未来について書かれた本書。

2022年

『セカイを科学せよ！』 安田 夏菜／著（講談社）

『海を見た日』 M. G. ヘネシー／作 杉田 七重／訳（鈴木出版）

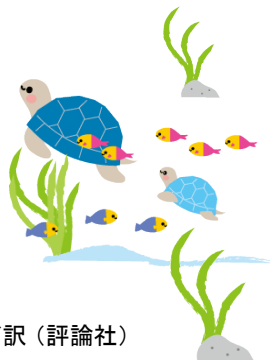
『江戸のジャーナリスト葛飾北斎』 千野 境子／著（国土社）

2021年

『ウィズ・ユー』 濱野 京子／作（くもん出版）

『アーニャは、きっと来る』 マイケル・モーパーゴ／作 佐藤 見果夢／訳（評論社）

『牧野富太郎』 清水 洋美／文 里見 和彦／絵（汐文社）



高校生の課題図書(2023年)



『ラプカは静かに弓を持つ』 安壇 美緒／著（集英社）



「音楽教室に潜入捜査してほしい」。ある日上司から言われた橘樹。彼は、国内の音楽著作権を管理する全日本音楽著作権連盟の社員である。最初はただの任務として音楽教室でチェロのレッスンを受けていたが・・・。かつてチェロを習っていた記憶・それと共に思い出される忌まわしい記憶にも徐々に変化が訪れる。

『タガヤセ！日本』 白石 優生／著（河出書房新社）

著者は現役の官僚YouTuberとしてメディアにも登場する「農水省の白石さん」。彼が、食べ物のおいしさや個性的な取り組みをしている農家さんを通じ、農業の魅力を紹介。そして今日本が乗り越えなくてはならない農業の課題も・・・。今まで想像していた「農業」へのイメージを一変してくれる、そんな一冊。



『昆虫の惑星』 アンヌ・スヴェルトルップ＝ティーゲソン／著

小林 玲子／訳 丸山 宗利／監修（辰巳出版）



「虫が苦手」という人は多いかもしれない。でも、虫の世話になっていない人はおそらくいない。例えばチョコレートやリンゴ、蜂蜜などは虫の協力が無ければ、手の届かない高級品になってしまう。それ以外にも環境問題の解決や医学の発展にも不可欠な存在です。そんな虫たちの奇妙で美しく、風変わりな世界をご紹介します。

2022年

『その扉をたたく音』 瀬尾 まいこ／著（集英社）

『建築家になりたい君へ』 隈 研吾／著（河出書房新社）

『クジラの骨と僕らの未来』 中村 玄／著（理論社）

2021年

『水を縫う』 寺地 はるな／著（集英社）

『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン／著 原田 勝／訳（あすなろ書房）

『科学者になりたい君へ』 佐藤 勝彦／著（河出書房新社）

